

## 近鉄結崎駅周辺地区 まちづくり基本構想

---

平成29年12月

 奈良 県

 川 西 町

# 目次

<b>I 概要</b> .....	<b>1</b>
1. 基本構想策定の背景と目的 .....	1
2. 基本構想の位置づけ・連携推進区域 .....	1
3. 策定の流れ.....	1
<b>II 現状の把握</b> .....	<b>2</b>
1. 人口の現状と将来展望 .....	2
2. 人の流動 .....	2
3. 土地の利用状況.....	3
4. 子育て .....	4
5. 産業.....	6
6. 交通.....	7
7. 公共施設・住宅.....	8
8. 文化・地域資源.....	9
<b>III 結崎駅周辺の現状</b> .....	<b>10</b>
1. 結崎駅の利用状況.....	10
2. 住民のニーズ .....	11
3. まちの賑わい.....	11
4. 現状と課題.....	12
<b>IV 結崎駅8800人フューチャーセッションのまとめ</b> .....	<b>13</b>
<b>V 課題整理・分析</b> .....	<b>16</b>
1. 問題点・課題の整理 .....	16
2. 町のSWOT分析 .....	17
3. 課題整理・分析のまとめ.....	18
<b>VI 基本構想のコンセプト</b> .....	<b>19</b>
<b>VII まちづくり基本構想の取組み</b> .....	<b>20</b>
<b>VIII まちづくり構想図</b> .....	<b>23</b>

# I 概要

## 1. 基本構想策定の背景と目的

### ● 背景・目的

川西町は、大和盆地のほぼ中央に位置し、大和川・寺川・飛鳥川・曾我川の4つの河川が流れる水辺の町である。古くは万葉の時代、南朝と北朝を結び交通の要衝として栄えた。大正時代に橿原神宮への参拝客を運ぶ大阪電気軌道（現 近畿日本鉄道）が開業すると、大阪・京都へ1時間という立地の良さから昭和40年代以降は住宅団地・工業団地が開発され人口が増加し、結崎駅周辺は川西町の玄関口として、また町の顔としてにぎわいを見せていた。

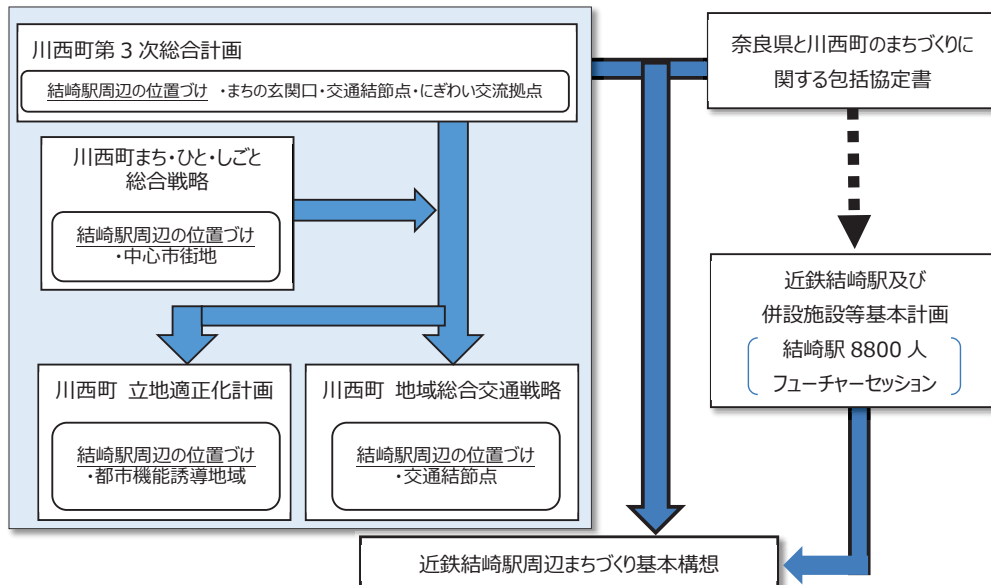
しかし、日本の高度成長とともに人口増加を続けた川西町も1995年をピークに人口は減少に転じ、時代の変化とともににぎわいは過去のものとなってしまった。

近鉄結崎駅周辺地区まちづくり基本構想は、過去の計画の流れを汲みつつ住民の意見を多分に反映させた「住民の、住民による、住民のための構想」であり、結崎駅周辺、そして川西町全体について多くの人に考えるきっかけを与えるものである。町の将来を見据えながら、駅及び駅周辺地区の拠点機能を再整備し、「川西町らしい 駅・まちづくり」の具体策である基本計画策定のための考え方を示すものとして策定されたものである。

## 2. 基本構想の位置づけ・検討区域

### ● 位置づけ

本構想は、上位計画である「川西町第3次総合計画」や「川西町まち・ひと・しごと総合戦略」「川西町立地適正化計画」「川西町地域総合交通戦略」に即した構想であるとともに、「近鉄結崎駅 8800人フューチャーセッション」により出された「近鉄結崎駅及び併設施設等基本計画」の内容を反映するものとする。



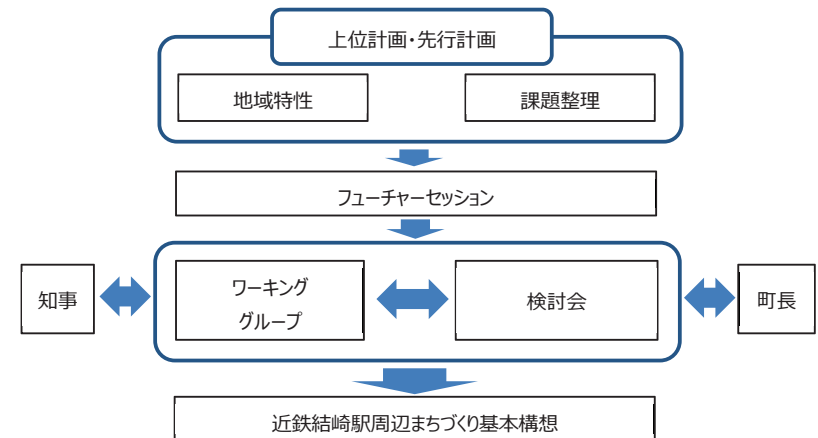
## 検討区域



## 3. 策定の流れ

近鉄結崎駅周辺地区まちづくり基本構想策定にあたっては、奈良県と川西町にて「まちづくりに関する包括協定」を締結し、行政及び関係団体等で構成されたワーキンググループや検討会にて進めていくこととした。

また、フューチャーセッションによって得られた住民の意見や有識者の意見等も踏まえ、基本構想を策定した。今後は、この基本構想をもとに、基本計画として実行性を高めていくことを予定している。



## II 現状の把握

### 1. 人口の現状と将来展望

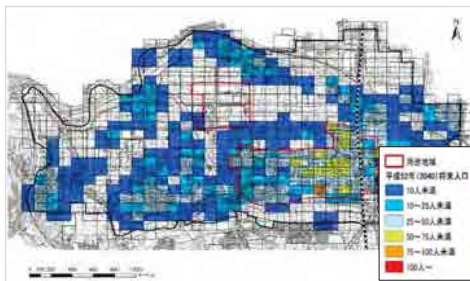
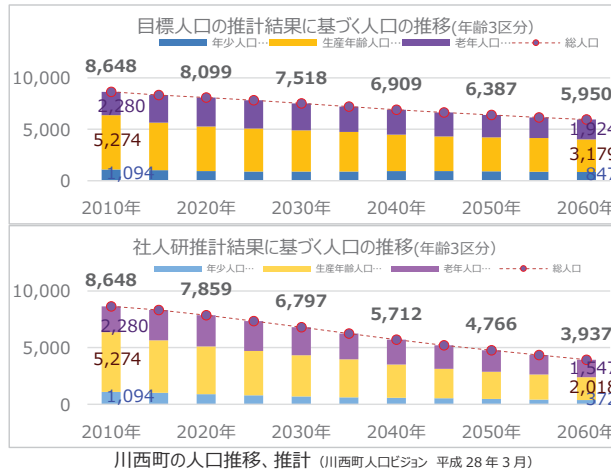
#### ● 人口

川西町の人口は1995年の9,847人をピークに減少に転じ、現在（2017年10月1日）では8,675人となっている。国立社会保障・人口問題研究所（社人研）が発表している『日本の地域別将来推計人口』によると、2060年には3,937人になると見込まれている。

川西町人口ビジョン（平成28年3月）においては、「2060年におおむね6,000人以上」を目標人口として設定し、2060年に5,950人になると推計している。

#### ● 地域別人口

人口減少や高齢化の波は近隣市町と同様に進んでいるものの地域的な分布をみると、結崎地区周辺は人口が比較的集中し、高齢化率が相対的に低い地区となっている。



### 2. 人の流動

#### ● 人の流動

川西町は近隣自治体、及び県全体と比較して、昼間人口比率が100%と比較的高い。

また、通勤の流入人口の常住人口に対する比率も35%と高く、従業者の流動が多い。

#### ● 年少人口・子育て人口

川西町の年少人口（0～14歳）の比率は、近隣自治体よりも比較的高い傾向が見られる。

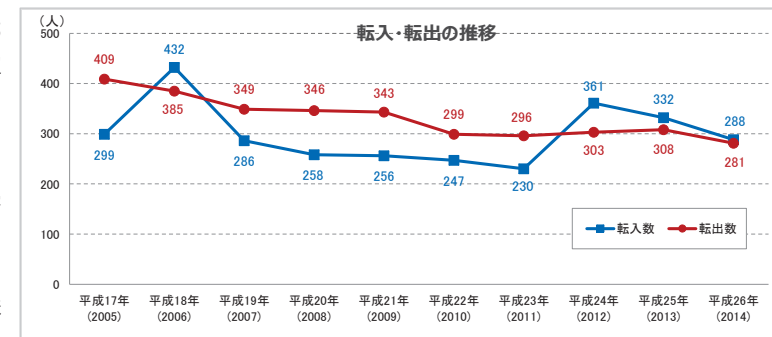
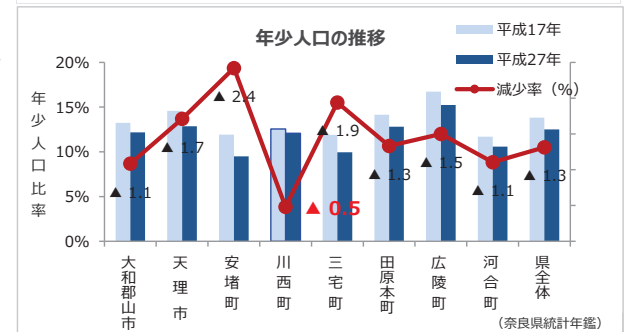
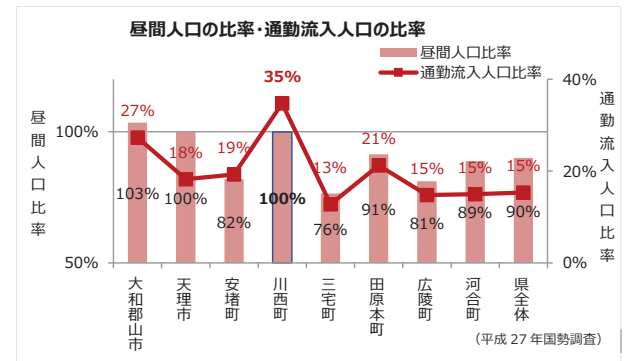
また、年少人口比率の直近10年間の減少幅は、県全体、及び近隣自治体と比較して小さい。また、子育て人口（20～39歳）の減少幅も比較的小さい。

#### ● 社会増減

転入数、転出数の推移をみると、平成19年以降、転出数が転入数を上回る転出超過の状況が続いていましたが、平成24年に転入数が転出数を上回り、転入超過に転じている。

ただし、男女別純移動数を見ると、男女ともに25～29歳の層で特に転出超過となっている。

川西町を転入先として川西町を選んだ理由は、「配偶者や家族、職場、学校の都合」等の理由が目立つが、「土地・家賃が安い」「地域外への移動（鉄道など）が便利」等の理由も多くみられる。

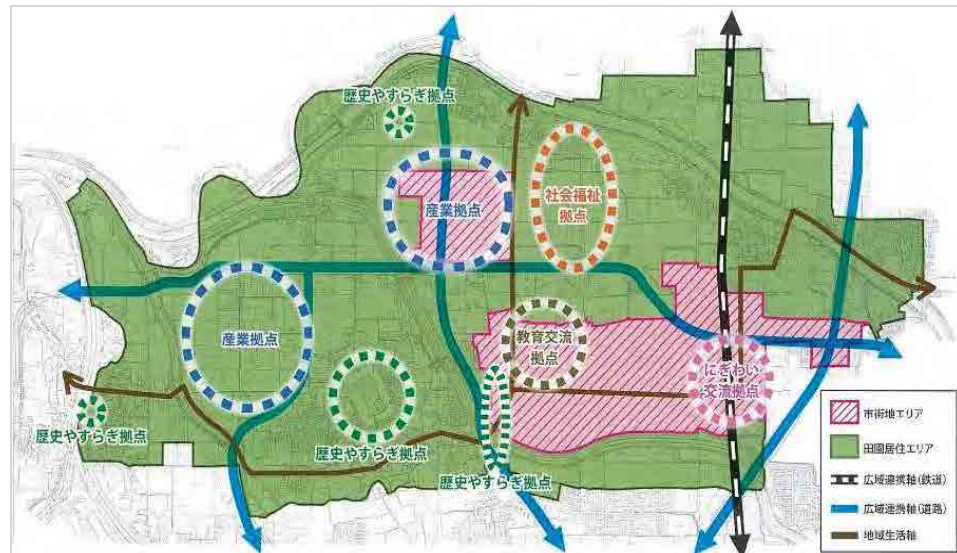


### 3. 土地の利用状況

#### ● 土地利用の基本構想

川西町第3次総合計画では、平成29年度（2017年度）から平成38年度（2026年度）を基本構想の期間として、「安心 すくすく 豊かな心を育む“かわにし”」をまちの将来像に掲げ、まちの基本方針を示している。

土地利用の基本方針として、日常生活に必要なサービスが住まいなどの身近に存在する「多極ネットワーク型のコンパクトシティ」の実現を目指しており、その中で結崎駅周辺は、「にぎわい交流拠点」（町の玄関口として交流機能と利便性を高め、商業施設等の誘導を図る。また、情報発信ともてなしの空間となる交流施設や情報発信機能の整備を進める）として位置づけられている。



土地利用構想図 (川西町第3次総合計画)

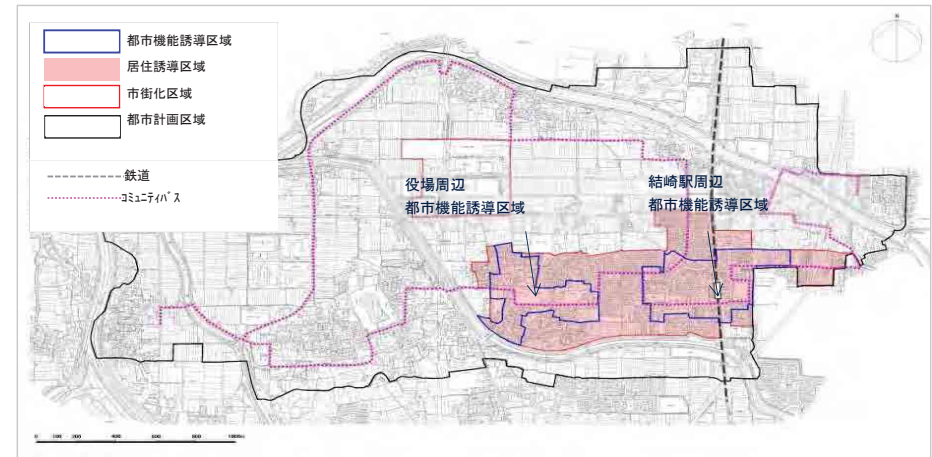
#### ● 都市機能誘導区域（立地適正化計画）

川西町立地適正化計画（平成29年3月）では、結崎駅周辺と役場周辺を「都市機能誘導区域」、それらを含み、結崎工業団地を除く市街化区域を「居住誘導区域」に指定している。

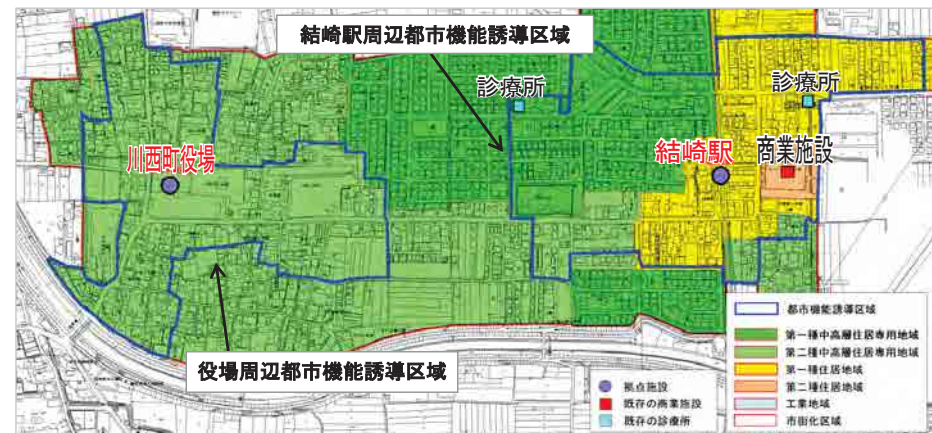
結崎駅が公共交通の要で、駅周辺には町内唯一のスーパーマーケットが立地しており、川西町第3次総合計画においても「にぎわい交流拠点」として位置づけられていることから、都市機能誘導区域に設定されている。

結崎駅周辺都市機能誘導区域では、以下の施設を誘導・維持すべきと設定している。

- ◆ 鉄道、バスや駅の利用増進につながるような施設（診療所）の誘導・維持
- ◆ 駅前のにぎわいの創出や町民生活の利便性確保のために、町内唯一のスーパーの維持



都市機能誘導区域と居住誘導区域 (川西町立地適正化計画)



都市機能誘導区域 (川西町立地適正化計画)

## 4. 子育て

### ● 町の子育て施策

川西町第3次総合計画のまちづくりの基本方針の一つである『子どもや子育てしている人にとってやさしいまちづくり』を踏まえ、『子どもたちの笑顔であふれるまち』を基本理念とした川西町子ども・子育て支援事業計画を策定している。当計画では以下の5つの基本目標を掲げ、子ども・子育て施策を推進している。



町の子ども・子育て事業の基本理念（川西町子ども・子育て支援事業計画）

- |      |                |                 |            |
|------|----------------|-----------------|------------|
| 基本目標 | 1. 地域の子育て支援の充実 | 2. 教育環境の充実      | 3. 健康管理の充実 |
|      | 4. 子育て環境の整備    | 5. 子育てを支える施策の充実 |            |

### ● 子育て支援施設

川西町内の小学校は1校、幼稚園、保育所、認定こども園はそれぞれ1箇所ずつ町の中央部から西部に立地している。

結崎駅がある東部には、すばる子どもセンターがあるが、駅の近くに施設は無い。

就学前児童の状況は、全体の児童数が減少している中で、家庭で過ごす就学前児童の割合が減少し、保育所や幼稚園に通う児童の割合が増加傾向にある。

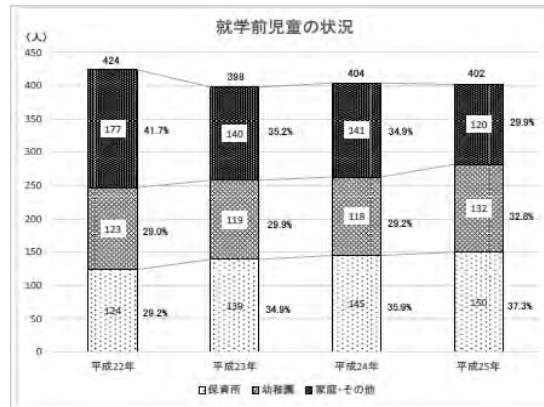


町内の小学校、幼稚園、保育所(園)の配置図（川西町子ども・子育て支援事業計画に加筆）

### ● 子育て支援事業

町では、妊娠・出産から就学まで切れ目ない子育て支援の充実を目指し、子育て支援センター、保健センターが中心となり、地域子育て支援拠点事業、利用者支援事業、一時預かり事業などを通じた環境整備を進めている。

子育て支援センターは0歳～就学前までの親子が対象。主に0歳～2歳児で保育所・こども園に行っていない親子をフォローしている。利用者数は、町内外あわせて述べ6,000名（H28）を超えている。



就学前児童の状況（川西町子ども・子育て支援事業計画）

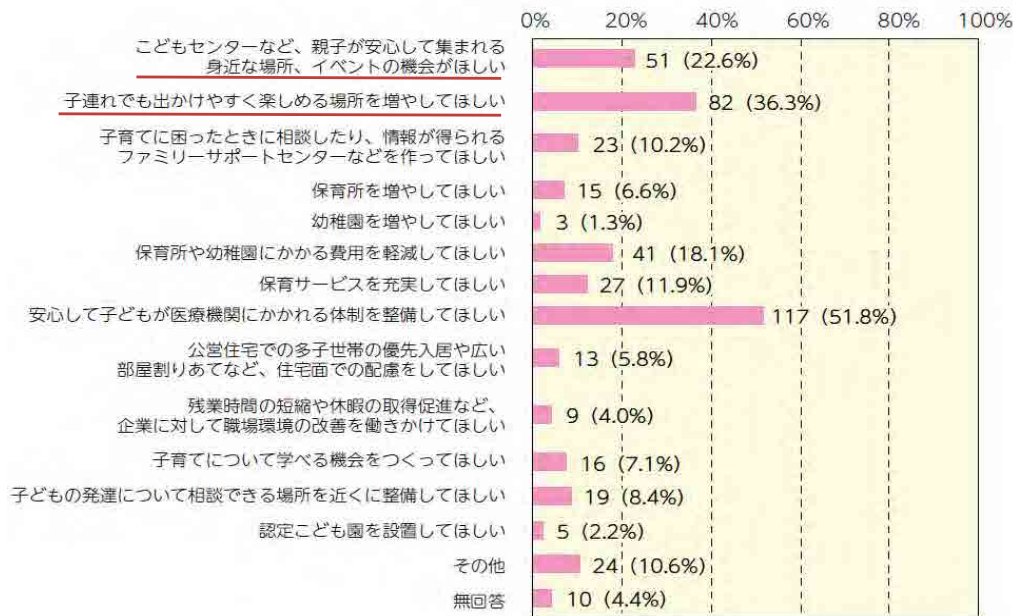
### 子育て支援センターの事業内容

事業名 (実施場所)	内容	2016年利用状況 (延べ数)
つどいの広場 “ひだまり” (子育て支援センター)	いつでも気軽に足を運び、親子で遊びながら交流を図る場。親子で体を動かしたりおもちゃを作ったりするお楽しみデーや誕生月の子どもたちのお祝いをする誕生日会など毎月1回開催。	6,088人
年齢別親子広場 (子育て支援センター)	0歳・1歳・2歳児が対象。 同年齢の親子でふれあい、遊びながら子育ての情報や手法を交換しあう交流の場。年11回開催	432組
移動広場 (文化会館、保健センター)	子育て支援センターを利用困難な親子の支援及び地域のつながりをつくり深めるための事業。年7回開催。	65組
青空広場 (各地域公園など)	気候が良いときに屋外で開かれる交流の場。移動式の遊具や砂場などを持ち込み、地域に住む親子同士の交流を図る。	63組
めばえ広場 (自治会別広場)	各自治会で子育て中の親子が集まる交流の場。	43組
きずなサロン (子育て支援センター、保健センター)	親子の交流と支援センターへのお誘いの意味も兼ねて実施。 新生児～1歳までの子どもとその保護者が対象。年5回開催。	64人
わくわくリズム (けやきホール)	ほぼ毎週火曜日開催。親子で身体を動かしながら交流を深める場。月4回「親子リズム」「親子で演奏会」「親子で3B体操」「キッズダンス」を実施。 対象は0歳～2歳児までの親子。	886人
子育て講座 (子育て支援センター)	子育ての体験者や専門的立場の講師により子育てのありようを考え学びあう場。 対象は、町内住民と町外の支援センター登録者。年10回開催。	121人
子育て相談 (子育て支援センター)	子育ての不安や悩みの相談について、臨床心理士（毎週木曜日）、発達相談員、保健師、保育士により対応。 対象は、0歳～就学前児の親。 相談日は、火曜日から土曜日の9時～17時（休館日は除く）	26件
一時預かり事業 (子育て支援センター)	子育てサークル「預かり隊」による一時預かり。 子育て支援センターは、依頼人（預ける人）と支援者（預かる人）との間を調整する事業を実施。 対象は、3ヶ月～就学前の子。1人3時間まで。1時間600円。	58件

## ● 子育て世代のニーズ

町の子育て支援への期待として、小学生では、「安心して子どもが医療機関にかかれる体制を整備してほしい」が51.8%で最も高い割合を占めるが、次いで、「子連れでも出かけやすく楽しめる場所を増やしてほしい」が36.3%、「こどもセンターなど、親子が安心して集まれる身近な場所、イベントの機会がほしい」が22.6%で続き、子育て中の親子が気軽に集い、交流できる場に対するニーズが高い。

また、就学前児童に関するアンケートでは、「子連れでも出かけやすく楽しめる場所を増やしてほしい」が46.9%で最も高い割合を占めている。



町の子育て支援について特に期待すること（小学生に関するアンケート）  
（川西町子ども・子育て支援事業計画策定のためのアンケート調査報告書）

## ● 川西町版ネウボラ事業

子育てに関する不安感や負担感、孤立感を緩和し、安心して喜びを感じながら子育てができるまちを目指し、妊娠期から出産、子育て期までを切れ目なくサポートする仕組みを、川西町版ネウボラ事業として推進を図っている。

また、地域における子育て環境としての交流場の提供とともに、子育て支援センター事業を円滑に利用できるように、情報の提供・発信に取り組むこととしている。



町の子育て支援について特に期待すること（就学前児童に関するアンケート）  
（川西町子ども・子育て支援事業計画策定のためのアンケート調査報告書）

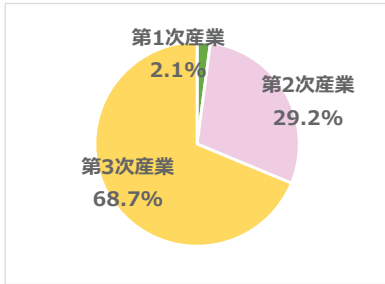


## 5. 産業

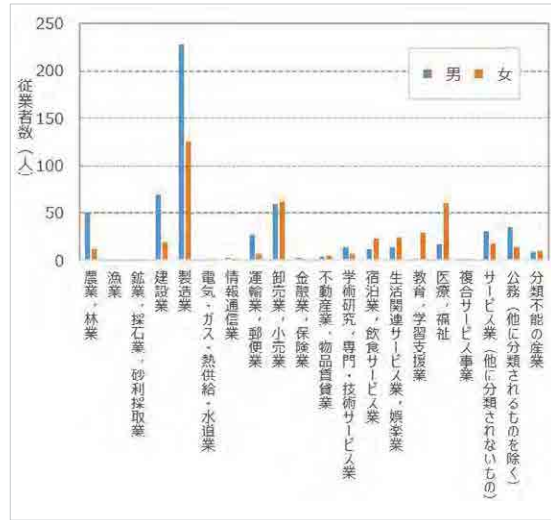
### ● 従業構造

川西町には唐院工業団地、結崎工業団地があり、就業人口割合は製造業等を含む第2次産業が29.2%と、奈良県全体（23.4%）と比較して高くなっている。

また、産業別従業者数のうち、「製造業」が男性・女性ともに一番多くなっている。



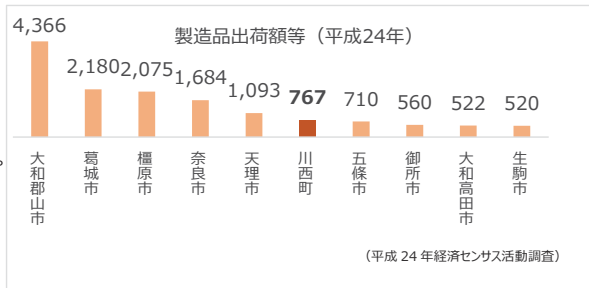
就業構造 (平成27年国勢調査)



川西町で従業する住民の男女別産業別従業者数 (平成27年国勢調査)

### ● 製造業

総務省・経済産業省の「平成24年 経済センサス活動調査」の製造業に関する集計では、川西町の製造品出荷額等は767億1833万円で奈良県39市町村中6位と比較的高い。

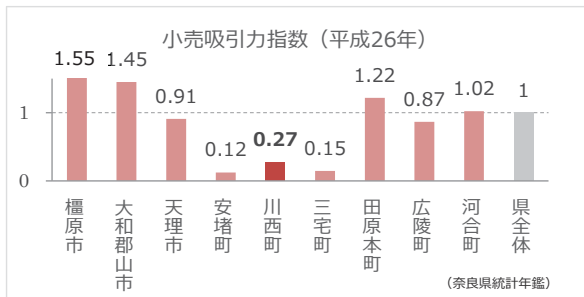


単位：億円

(平成24年経済センサス活動調査)

### ● 商業

小売吸引力指数をみると、奈良県を基準とした場合、近隣自治体では、橿原市、大和郡山市、田原本町、河合町が1.0以上となっているのに対し、川西町は0.27と低く、買い物客が外部に流出していると見ることができる。



※小売吸引力指数：人口から想定される商業販売額（県ベースの1人当たり商業販売額×当該地域の人口）と、実際の販売額との比率

### ● 工業ゾーン創出への取組み

川西町第3次総合計画のまちづくりの基本方針の一つである『人・企業にとって魅力あるまちづくり』を踏まえ、新たな産業用地の確保（工業ゾーン創出）に取り組んでいる。良好なアクセス環境に加え、企業が立地を望む魅力的な環境整備や優遇制度・奨励金の充実を行うことで企業誘致を促進し、雇用の創出と財政基盤の強化を図ることで、職住近接の住みやすいまちづくりを目指す。



唐院工業団地周辺地区の様子 北側・西側エリアを拡張予定 (平成29年9月時点)



奈良県と川西町で「唐院工業団地周辺地区に係る工業ゾーン創出に関する連携協定」を締結。  
(平成29年9月5日)

工業団地の拡張事業や企業誘致などについて連携・協力し、工業ゾーン創出を進めていく。

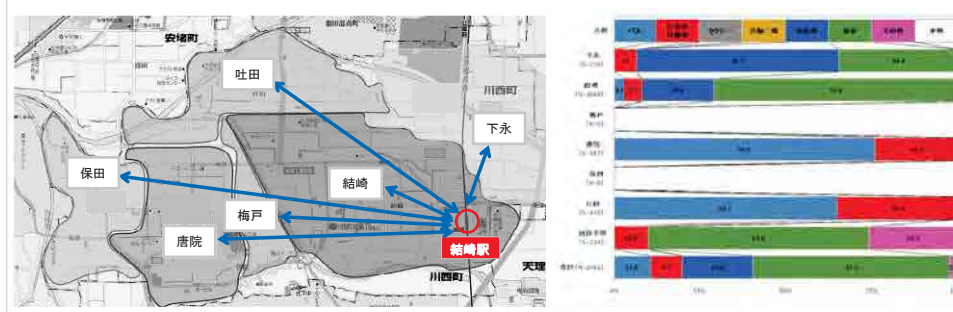


## 6. 交通

### ● 公共交通の概要

川西町の公共交通網は、まず町の玄関口である「近鉄橿原線 結崎駅」があり、その他生活の足として、駅及び公共施設、集落等、広く町域を連絡するコミュニティバス「川西こすもす号」が運行されている。

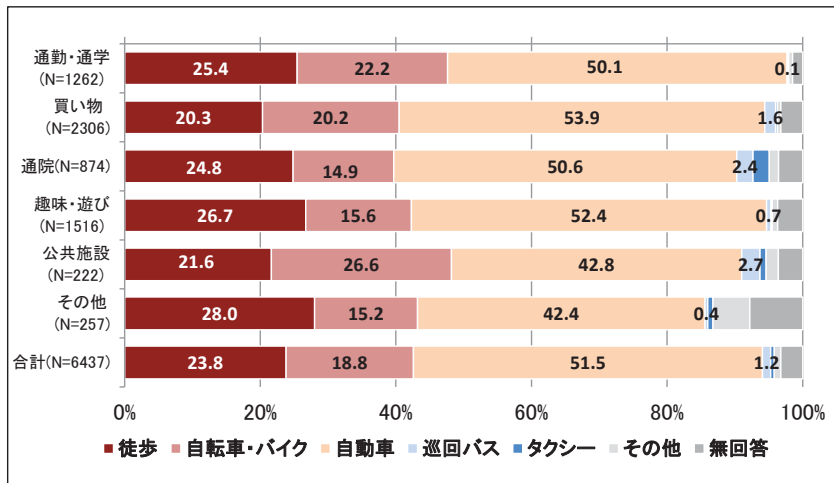
結崎駅利用者の「各地域から駅までの移動」と「駅から各地域までの移動」の数値をみると、結崎駅の利用者の半数以上は徒歩による移動が占めている。



「結崎駅」利用者の、駅まで(から)の町内地域別駅交通手段 (平日) (川西町地域総合交通戦略 平成 29 年 3 月)

### ● 目的別交通手段

住民の交通の主役は「自動車」であり 51.5%と半数を超えている。一方、「巡回バス（コミュニティバス）」利用は 1.2%と非常に少ない状況にある。川西町地域総合交通戦略においては、現在の自動車需用に即した対応をする一方で、環境負荷の少ない公共交通や徒歩・自転車への転換を推進することとしている。

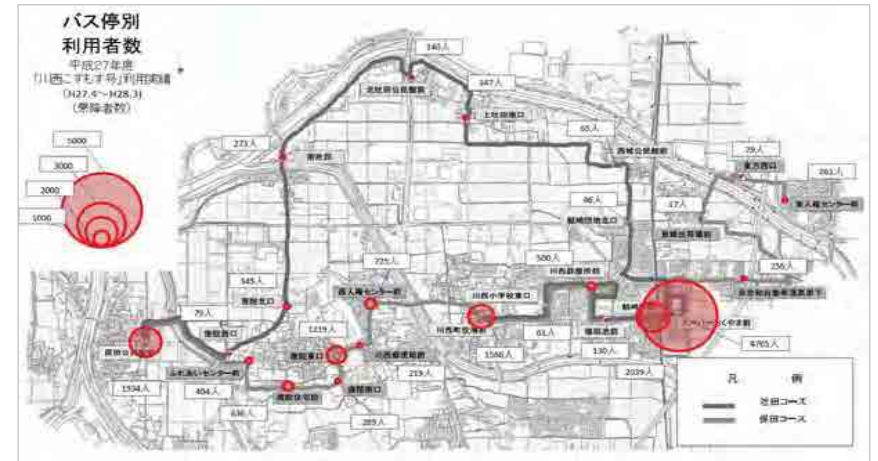


目的別交通手段 (「川西町地域公共交通計画 H26.3」アンケート調査) (川西町地域総合交通戦略 平成 29 年 3 月)

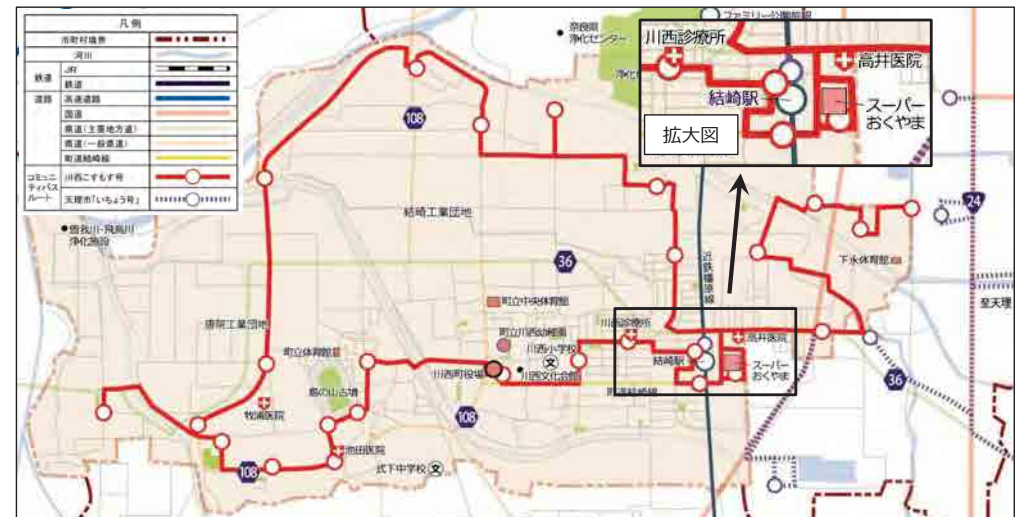
### ● コミュニティバス

「川西こすもす号」は、4路線合計で 1日 15便運行している。基本的には平日のみの運行で、運行時間は 8 時から 18 時までである。結崎駅と各地域、及び各地域を相互に連絡し、乗降数は、「結崎駅前」、「スーパーおくやま前」が多くなっている。「川西こすもす号」は、「結崎駅と各地域」、及び「各地域」相互を連絡する唯一の公共交通であり、ルート延長、運行時間帯、頻度など、住民のニーズや高齢化の進行や工業団地の従業員の増加等の状況を踏まえながら、町内を誰もが円滑に移動できるように利便性向上と利用促進を図っていくことを目指している。

また、天理市コミュニティバス「いちよう号」が平成 29 年 10 月 2 日より結崎駅に乗り入れを開始している。



「川西こすもす号」バス停別利用者数 (川西町地域総合交通戦略 平成 29 年 3 月)



川西町の交通網及びコミュニティバスルート (平成 29 年 10 月改定)

## ● 企業送迎バス

工業団地の企業から「結崎駅」への送迎バスは、6社の運行が確認されている。

結崎工業団地の企業送迎バスは3社が運行しており、出退勤時合わせて27便、延べ約260人が利用している。唐院工業団地でも3社が運行しており、出退勤合わせて56便、延べ約270人が利用している。その他町外企業の送迎バス利用者を合わせると1日約630人に及ぶが、そのほとんどは主として乗降だけに結崎駅を利用している。現在、唐院工業団地において工業ゾーン創出への取組みを行っており、企業の新規立地による新たな送迎バス需要が見込まれる。

【企業送迎バス運行状況】

結崎駅－結崎工業団地間				結崎駅－唐院工業団地間				結崎駅－町外			
企業名	出退勤	便数	利用人数	企業名	出退勤	便数	利用人数	企業名	出退勤	便数	利用人数
東洋シャッター	出勤	2	約20人	大日本印刷	出勤	22	115	光洋サーモシステム (天理市)	出勤	2	50人
	退勤	4	約20人		退勤	22	115				
GMB	出勤	4	50～60人	大阪電気工業	出勤	2	6人		退勤	2～3	50人
	退勤	5	50～60人		退勤	4	6人				
光洋機械	出勤	6	40～50人	汎建製作所	出勤	2	13～14人				
	退勤	6	40～50人		退勤	4	13～14人				

(川西町地域公共交通計画 平成26年3月より一部抜粋の上加筆)

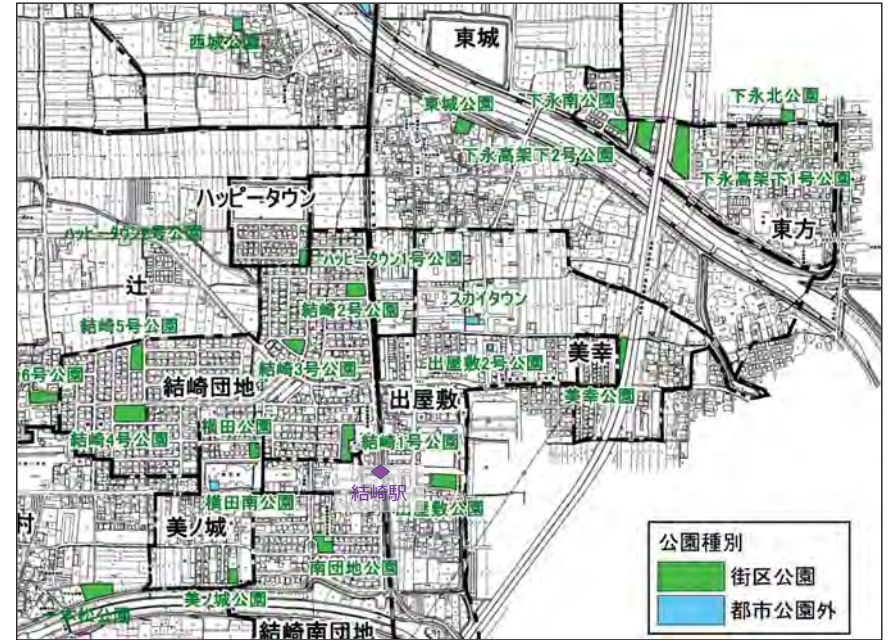
## 7. 公共施設・住宅

### ● 施設・公園の状況

結崎駅の近隣には公共施設が存在しない。ただし、公的な施設として、結崎駅西側に結崎公民館、東側に出屋敷公民館が存在する。町内には都市公園が31箇所、都市公園外の公園が6箇所存在している。



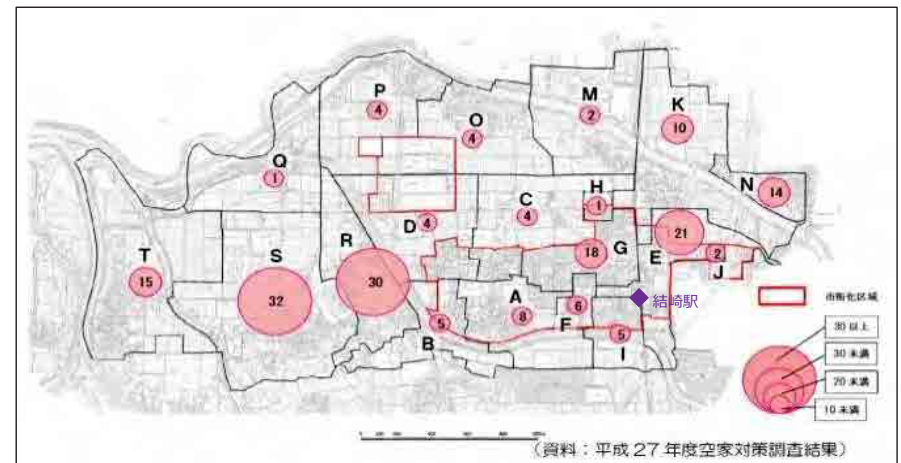
公共施設位置図 (川西町公共施設等総合管理計画 平成29年3月)



公園位置図 (平成27年度都市公園施設整備調査・分析業務報告書より一部抜粋の上訂正及び加筆)

### ● 空家等の状況

平成27年度に実施された空家等対策調査の結果によると、市街化調整区域内の地区（梅戸や唐院など）で空家等の件数が多いが、結崎駅西側の結崎団地、東側の出屋敷においても比較的多く分布している。



(資料：平成27年度空家等対策調査結果)

空家等の分布状況 (平成27年度空家等対策調査)

## 8. 文化・地域資源

### ● お祭り・イベント

川西町内では、以下のようなお祭り、イベントがあるが、結崎駅周辺で行われるイベント等はスペースの問題等から特に行われていない。

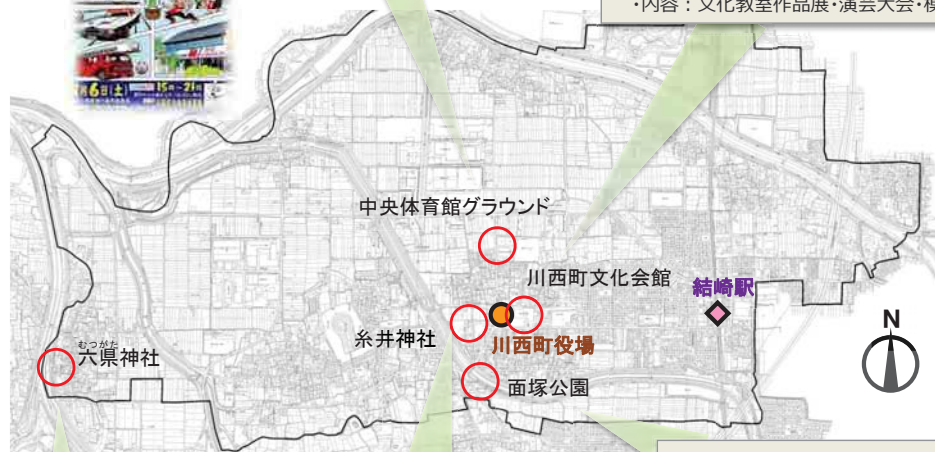
#### ●かわにし夏フェスタ

- ・主催：川西夏まつり実行委員会
- ・場所：川西町立中央体育館グラウンド
- ・時期：8月
- ・内容：屋台、ステージイベント、熱気球体験、花火など



#### ●川西文化祭

- ・場所：川西文化会館
- ・時期：毎年 11 月
- ・内容：文化教室作品展・演芸大会・模擬店ほか



#### ●面塚さくら祭り

- ・場所：面塚公園
- ・時期：毎年 4 月第一土曜
- ・内容：桜が開花する時期の祭り



#### ●子出来おんだ (奈良県無形民俗文化財)

- ・場所：六泉神社
- ・時期：毎年 2 月 11 日
- ・内容：御田植祭で行われる芸能



#### ●トウヤの秋祭り

- ・場所：結崎内及び糸井神社
- ・時期：毎年 10 月第四日曜
- ・内容：結崎の五垣内が糸井神社の境内社で祀られる神を奉じてお渡りを行う。町内最大規模の祭り

### ● 地域資源

#### 結崎ネブカ

(大和平野を代表する伝統野菜)



大和平野で広く栽培されていたが、特に結崎村（現川西町）で多く栽培されていた。葉ネギの一種で、柔らかさ・濃厚さ・甘みなど独特の特色をもつ。

一杯の種をもとに生産農家と商工会が復活に向けたプロジェクトを立ち上げ、大和伝統野菜として市場に復活することとなった。

#### 貝ボタン

(全国トップシェアの地場産業)



明治時代、ドイツ人により神戸に伝えられ川西町にも伝わり、農家の副業として定着していった。近年では、近代的な技術と昔ながらの手づくり感が兼ね備わった付加価値のある商品として再注目されている。

#### 佐々木塚古墳



#### 油掛け地蔵

#### 八幡神社



#### 島の山古墳

#### 川西町役場

#### 結崎駅

#### 佐々木塚古墳

#### 鎮主さん



島の山古墳 (全長 200m の前方後円墳)

面塚 (能楽「観世流」発祥の里)



●面塚に伝わる伝説 ●室町時代のある日のこと、一天にわかにかき曇り、空中から異様な怪音とともに寺川のほとりに落下物があつた。この落下物は、一個の翁の面と一束の葱で、村人は能面をその場にねんごろに葬り、葱はその地に植えたところ見事に生育し、『結崎ネブカ』として名物になった。

(川西町ホームページより抜粋)

### Ⅲ 結崎駅周辺の現状

#### 1. 結崎駅の利用状況

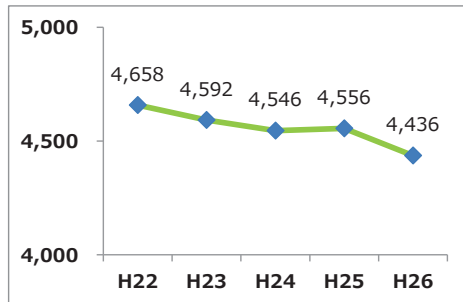
##### ● 駅の利用

結崎駅の日平均乗降客数は、減少傾向にあるものの、平成 26 年で 4,436 人である。

結崎駅を利用する交通手段の割合を「京阪神都市圏パーソナルトリップ調査」(平成 22 年)によると、徒歩利用が約 5 割以上と最も多く、次いで自転車利用が約 3 割となっており、自家用自動車は約 1 割と少ない。

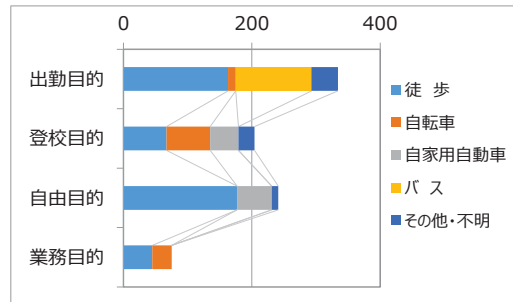
川西町から結崎駅を利用するトリップの目的割合をみると(帰宅目的(50.9%)を除く)、出勤目的(17.1%)が最も多く、次いで自由目的(12.4%)、登校目的(10.5%)となっている。

【結崎駅乗降客数の推移(人)】



(奈良県統計年鑑)

【結崎駅を利用する目的別のトリップ数(トリップ)】

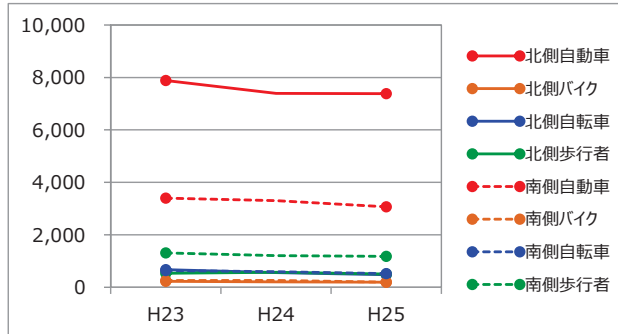


(平成 22 年京阪神都市圏パーソナルトリップ調査)

##### ● 南北の踏切の往来状況

結崎駅の南北踏切部の交通量・通行量をみると、自動車は 7 : 3 の割合で北側踏切の交通量が多く、歩行者は 7 : 3 の割合で南側踏切の通行量が多い。

北側踏切では、朝は東→西向き(王寺方面)の交通量が多く、夕方は逆になる。一方、南側踏切では、昼前は西→東向き(スーパーおくやま方面)交通量が多く、夕方は逆になる。



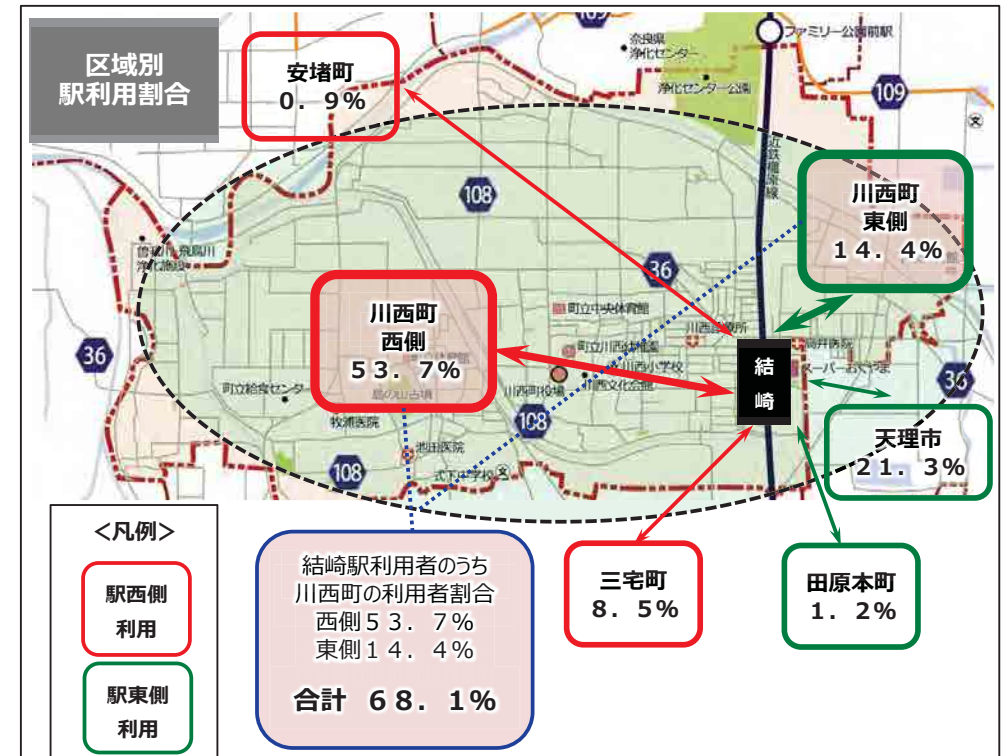
平成 23~25 年 南北踏切部の交通量・通行量 (川西町商工会)

##### ● 東側と西側別の利用者数

近鉄結崎駅の利用者数(乗降者数)の東西分担率の試算では、東側の利用は 36.9%、西側の利用は 63.1%であり、結崎駅の利用者の約 4 割は東側から踏切を越え、回り込んで西側にある改札より駅を利用していることが伺える。

結崎駅出入口	分担率	乗降数	内訳		
			川西町	天理市 田原本町	三宅町 安堵町
総数	100.0%	4,053 (H27.11 月実績値)	2,760	912	381
東側	36.9%	1,496	584	912	0
西側	63.1%	2,557	2,176	0	381

(川西町地域総合交通戦略及び立地適正化計画策定業務委託報告書 平成 29 年 3 月)



## 2. 住民のニーズ

### ● 近鉄結崎駅及び周辺の整備計画等に関する住民意向調査

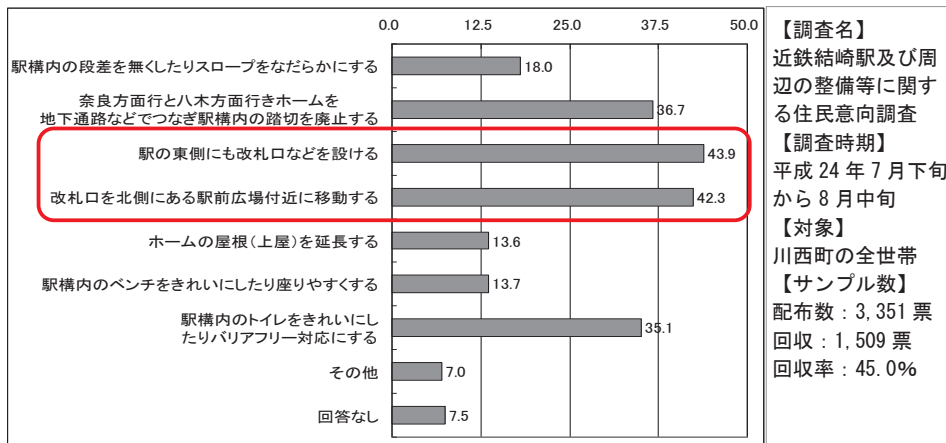
優先的に取り組むべき項目として、

- ・「駅の東側にも改札口などを設ける」 43.9%。
- ・「改札口を北側にある駅前広場付近に移動する」 42.3%

があげられ、駅へのアクセスや移動の連続性についての要望が多い。

他には、「駅構内のトイレをきれいにしたりバリアフリー対応にする」35.1%や「駅構内の段差を無くしたりスロープをなだらかにする」18.0%と続くなど、バリアフリー化に対しての要望も多い。

#### ■ 駅としての整備、改善に優先的に取り組むべき項目



### ● フューチャーセッションによる住民のニーズ

フューチャーセッションでは、駅及び駅周辺に対する意見が住民より幅広く出され、施設等へのニーズのほか、子どもを一時的に預けられる機能など、子育てに関する要望も出された。

駅・駅前に求められていること	「安全」「にぎわい」「人の結びつき」「町（歴史）への誇り」 「安心して集まれる空間」「乗り降りだけではない駅」 「早く乗り降り」「移動距離が短い」
求められている施設	「飲食・物販」「駐車スペース」「屋根」 「広場・緑」「広いスペース」
どのように使うのか	「子育て支援」「多世代交流」「川西町をアピール」 「他の場所で出来ないことをやりたい」

## 3. まちのにぎわい

### ● 駅周辺の商業施設

駅の西側には店舗が少ない。駅の東側には個店、スーパーがあるものの、歩道も整備されておらず、人通りは少ない。また、駅周辺に、住民が滞在できるような場所がほとんどない状況である。



#### 【住民のニーズ～フューチャーセッションより～】

- 飲食を中心として皆で集まりにぎわいを感じられる広場の使い方に興味・関心が強い。
- 「食べる・飲む」では主に飲食店、「遊ぶ・憩い」では公園・休憩、「買う・売る」ではコンビニ要望が多かった。「集客」では案内所や観光など、「子育て・介助」では子育て支援要望が多い。

## 4. 現状と課題

### ● 拠点・シンボル性

結崎駅は、「にぎわい交流拠点」の中心となる施設として位置づけられ、まちの「玄関口」としての役割を担う駅である。平均乗降客数は減少傾向にあるが、町内で人口が集中する生活の拠点として、川西町役場を中心とした「教育交流拠点」、および工業団地の拡張計画などに伴ってアクセス増加が見込まれる「産業拠点」との交流など、まちの連携機能の中心として「誰もが集まれる場所」としての役割を果たすとともに情報発信機能を発揮することが課題である。

### ● 安全性

駅の南側の踏切では、歩道がなく狭幅員であり、歩行者と車両が混在した危険な状態となっている。駅の改札口前においても、歩行者と車両の分離ができていないことに加え、駅舎前が朝夕に送迎車で混雑し、走行車両への支障、歩行者や自転車との錯綜が発生する状況となっている。また、ベビーカー、車椅子、高齢者が利用しやすいための駅及び駅周辺のバリアフリー化や道路、広場周辺の夜間照明など防犯面も課題である。

### ● 交通結節点機能

南側踏切では自動車の対面通行ができず、北側踏切では歩道が片側しかないことに加え、大型車との対向ができないため渋滞が発生している。駅利用者は、駅舎改札が線路西側にあるため線路東側からは踏切を横断しないとアクセスできない。駅西側のロータリーは、奈良交通の所有であり、奈良交通と契約しなければ企業送迎バスが利用できない上、コミュニティバス等からのアクセスも不便である。

駅周辺の駐車スペースは、駅改札の南に4台分のスペースがある他は、北側踏切の西に10台分の一時駐車場があるのみで、今後、結崎駅周辺にてイベント等開催の際に対応できる駐車スペース確保が課題である。

### ● 景観・交流機能

駅と周辺公園の間、駅前の一等地に未利用の駐輪場があるがゴミが捨てられるなど良好な景観が阻害されている。駅の北西部には「駅前広場」があるが、改札までのアクセスが悪く有効に使われていない。

周辺の既存商業施設は老朽化し、空き店舗が増加するなどにぎわいを生むスペースが無いことに加え、東側からのアクセスの悪さもあり、鉄道駅が本来持つべき人の交流機能が低くなっている。

町に古くからある歴史的な地域資源や産業的地域資源を通勤流入者等にアピールするなど、情報発信・交流促進を促す施設の整備や人材の育成が課題である。

#### 主な課題

- ◆ 東側からのアクセス改善など交通結節点強化と安全円滑な交通環境整備
- ◆ 駅周辺を拠点とした交流・にぎわいの創出とまちの魅力発信
- ◆ 住民参加によるまちづくりの推進
- ◆ 駅前を魅力的に「魅せる」一体的な駅前整備



#### 施策の方向性

近鉄結崎駅周辺の交通結節点強化と安全円滑な交通環境を実現するとともに、「まちの玄関口」にふさわしい交流・にぎわいのまちを目指す。

### 【駅周辺の課題整理】



## IV 結崎駅 8800 人フューチャーセッションのまとめ

### ● 結崎駅 8800 人フューチャーセッションとは

平成 28 年 8 月 21 日～平成 29 年 2 月 19 日まで計 8 回にわたり開催。小学生から高齢者まで延べ約 400 名もの住民が参加し、未来の結崎駅のあるべき姿について案を出し合った。

様々なニーズを把握・分析し、結崎駅での事業や空間のシナリオを構築。分かりやすいコンセプトと役割の明確化、結崎駅及び併設施設の運営管理体制の初期シナリオまで踏み込み、住民の住民による住民のための駅づくりに関して話し合った。



### ● 住民の意見

・結崎駅及び駅周辺施設で住民がどのような行動や活動を望んでいるか分析。一般の人だけでなく、未来の利用者である小学生、子育て世代である幼稚園の保護者からの意見を集計し分析した。ニーズとしては、「食べる・飲む」では主に飲食店、「遊ぶ・憩い」では公園・休憩、「買う・売る」ではコンビニ要望が多かった。「集客」では案内所や観光など、「子育て・介助」では子育て支援要望が多い結果となった。

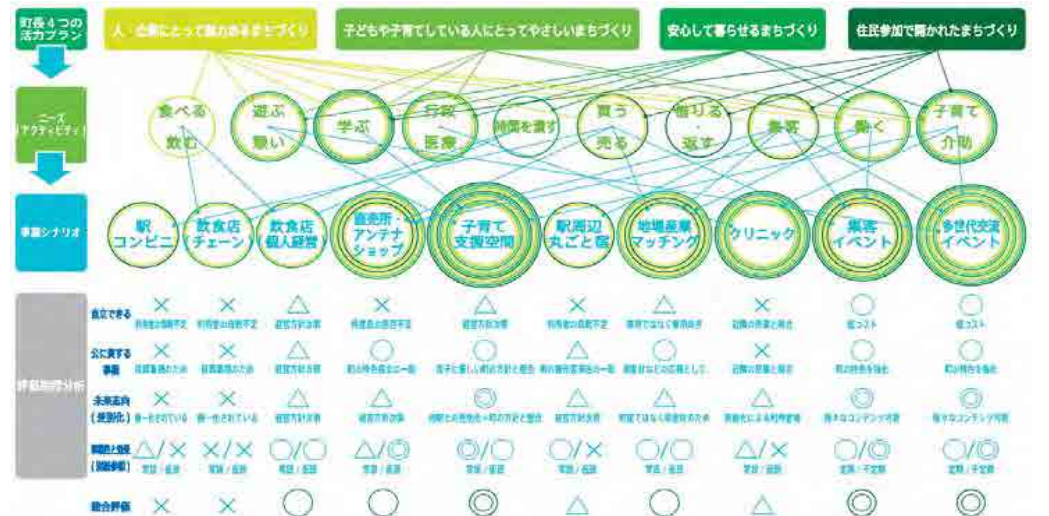
	飲食	遊ぶ	学ぶ	行政等	時間潰し	買う・売る	借りる・返す	集客	働く	子育て・介助
一般	11	23	14	7	13	11	5	19	1	15
小6	23	30	6	2	19	22	0	33	3	10
ママ	3	9	2	7	4	4	2	6	0	21

・駅前広場やロータリーで住民がどのような行動や活動を望んでいるか分析。飲食を中心として皆で集まりにぎわいを感じられる広場の使い方に興味・関心が強いことが伺える。ついで買い物や自主的に参加する体験、そして運動できる機会を求める傾向が見られた。

	飲食	運動	買い物	音楽	寛ぐ・楽	知る	遊ぶ	にぎわう	観る	体験する
季節毎	12	5	4	7	7	4	2	20	7	12
不定期	12	5	13	5	3	6	7	20	11	12
定期	3	6	3	0	2	0	6	0	1	1
毎日	4	7	2	0	8	6	9	0	0	4

### ● 事業シナリオ案

住民のニーズからいくつかの事業シナリオを作成。それらを「自立できるか」「公に資する事業か」「未来志向であるか」「事業性と効果があるか」等の評価指標を設定し分析。



「子育て支援空間」「多世代交流イベント」「集客イベント」が住民ニーズの分析から導き出された。結崎駅 8800 人フューチャーセッションから未来の結崎駅のあるべき姿は、「子育てを軸にしつつ多世代の人が集まれる交流機能を持たせる」という方向性が浮かび上がってきた。

## ● フューチャーセッションで示された運営・管理体制（案）

### 【結崎駅及び結崎駅周辺に必要な施設機能案】

少人数での管理を可能とするために併設施設・広場と一体となり全体を一目で見渡せるような空間設計を行う。

#### ・駅舎内

空調の効いた改札内にある待合室、車椅子等バリアフリーにも対応したトイレ。

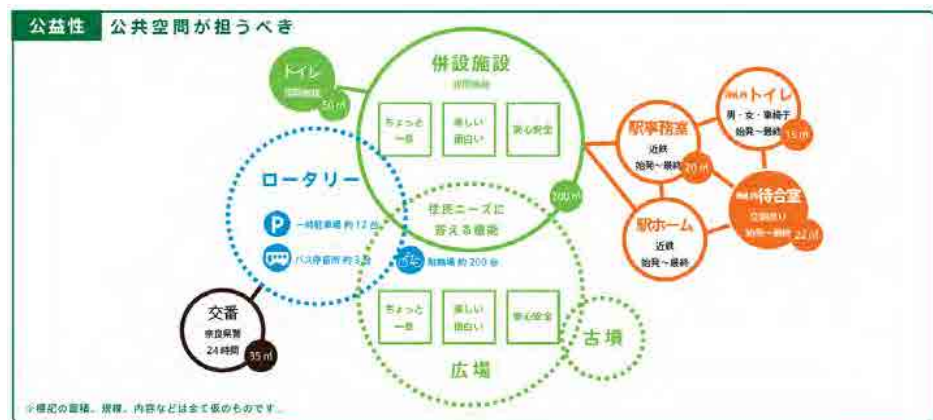
#### ・併設施設・広場

「ちょっと一息つける場所」、「楽しい・面白い」、「安心安全」をキーワードに住民ニーズに答える機能を検討。

併設施設及び併設施設のトイレは防犯面を考慮し夜間は施錠。

#### ・ロータリー

駐輪場・一時駐車場・バス停留所を設置。



### 【結崎駅及び結崎駅周辺の運営・管理スキーム案】

新しい結崎駅及び駅周辺は、乗る、降りる、という従来の機能に加えて、にぎわいを創るために複合的な機能が併設施設に求められており、建物完成後ににぎわいを創出するため自立性が高く、クリエイティブな運営が必要。

#### イ) 従来通り

駅は近鉄。駐輪場は奈良交通。それ以外は川西町または住民が管理。

#### ロ) 川西町直営

駅は近鉄。駅以外の併設施設・駐輪場・公園などは川西町が直営。

#### 二) 川西町・近鉄保有+事業運営会社 POC<sup>※1</sup>

団体・企業等から出資を受け、川西町や住民から支援を受けて事業運営会社「(仮称)結崎駅株式会社」を設立。土地や建物は近鉄や川西町の所有のまま、駅業務や併設施設、駐輪場・駐車場・公園などの運営を行う案。

#### ホ) 施設保有会社 SPC<sup>※2</sup>+事業運営会社 POC

二)の案に町保有の土地や建物を、団体・企業・川西町等が出資し設立した SPC に保有させ POC が運営する案。

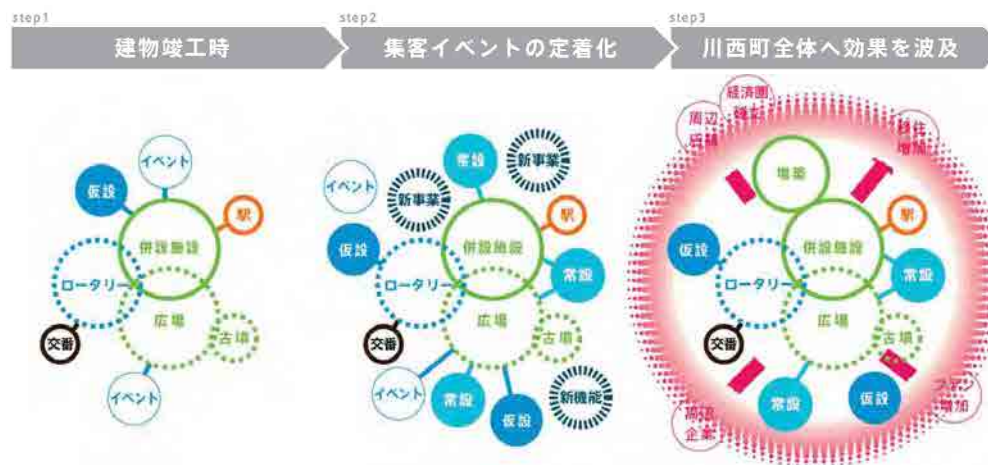
※1 POC・・・Project Operation Company (プロジェクト運用会社)

※2 SPC・・・Specific Purpose Company (特定目的会社)



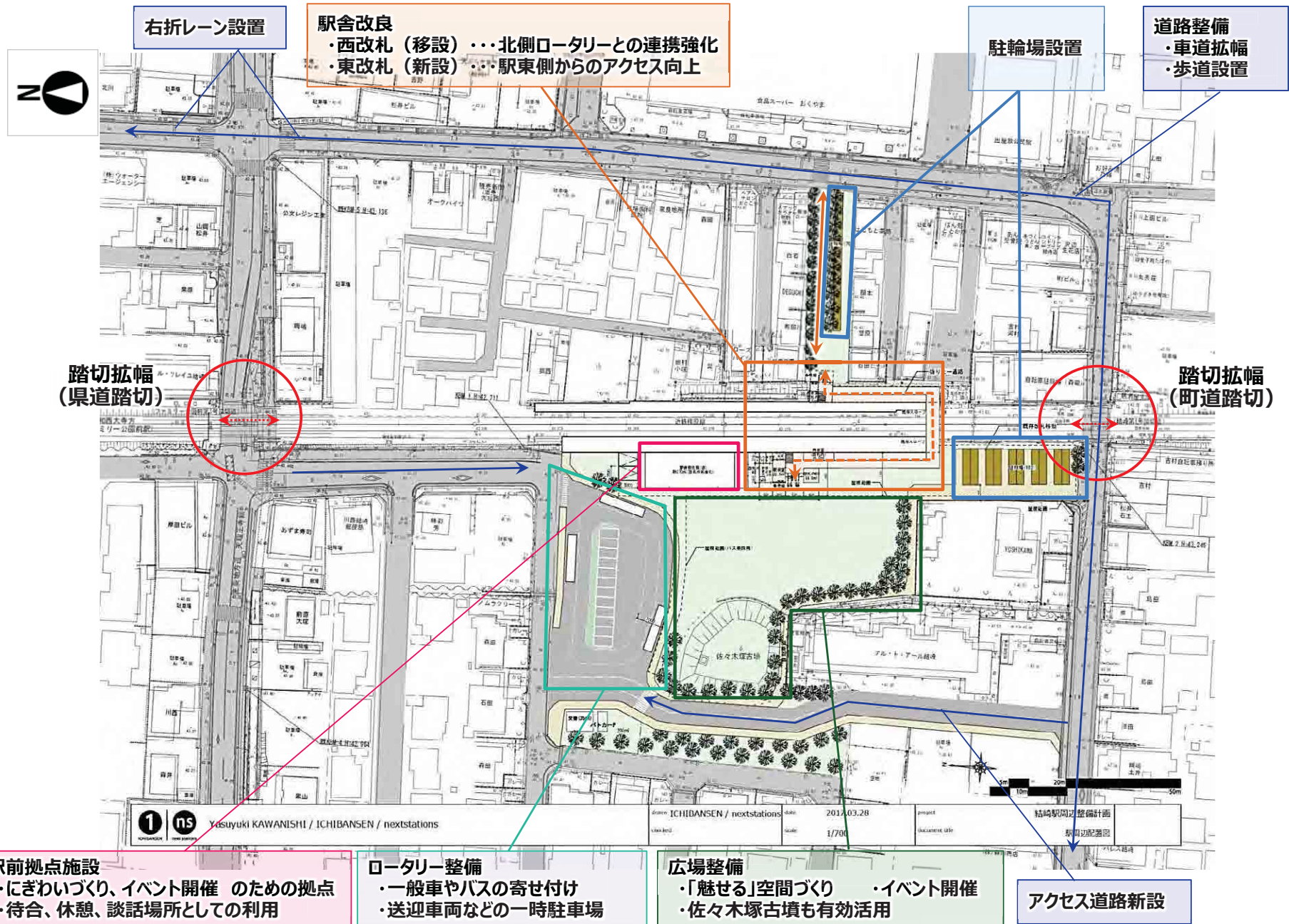
## ● 持続可能性を高めるためのスモールスタート

当初は、汎用性の高い空間と広場を利用して、集客イベントを少しずつ無理せず低予算で開始。イベントの定着化・定期開催を図り、収益性の高い有料イベントを増やすことで、住民ニーズに対応した事業等を実施。これを繰り返し、新しい結崎駅から川西町全体へ効果を波及させるという方向性がフューチャーセッションで示された。





# フューチャーセッションでの意見をもとに町が考えた整備プラン（案）



## V 課題整理・分析

### 1. 問題点・課題の整理

町にとって必要と思われる「集まる」「つながる」「発信する」という視点で問題点をあげ課題を整理。そこから方向性キーワードを5つ抽出。

問題点から見た取り組みの方向性を示す

#### ① みんなが集まるという視点からみた問題点・課題

##### 問題点

- 「誰もが集まれる場所」ではない
- 駅周辺の施設や空間が一体的に運営・管理されていない
- 駅周辺に店舗が少なく、町民の生活利便性や交流性が低い
- 駅周辺には子育てについて相談する場所がない
- 駅周辺ににぎわいを生むスペースが未整備
- 駅前広場は照明が暗く、人通りも少ないため防犯性が問題
- 沿道のアーケードが老朽化し、空き店舗が増加
- イベント時などに対応できる十分な駐車場スペースがない
- ベビーカー、車椅子、高齢者の移動に支障がある

##### 課題

- ハード・ソフト両面での一体的な運営管理と、住民参加システムの構築
- 子育て、商業などの地域活性化のための誘導・維持
- 気軽に育児を相談したり、子育て世代が集まるスペースの確保
- 交流空間やイベントスペースの確保
- 交番や街灯設置による防犯性の向上
- まちづくりへの利活用のあり方を駅前整備と一体的に検討
- 駅周辺の既存ストックの活用を検討
- 駅及び駅周辺のバリアフリー化

#### ② 川西町全体へのつながりという視点からみた問題点・課題

##### 問題点

- 結崎駅は川西町における唯一の交通結節点だが、平均乗降客数は減少傾向
- 通勤で結崎駅を利用する企業送迎バスが運行されており、企業誘致のためには産業集積地への通勤利便性の向上が不可欠
- 結崎駅への交通手段は、自転車が3割、車での送迎が1割である
- コミュニティバスと鉄道がスムーズにつながっていない
- 改札から遠く利用しづらいロータリー
- 歩車混在する狭い踏切と駅改札前

##### 課題

- 町域レベルのネットワークハブ機能を強化
- 企業バス需要に対応する、駅前広場スペースの確保
- 駅前の駐輪場再配置、円滑に送迎できる駅前広場スペースの確保
- 駅前広場でコミュニティバスの快適な利用促進
- まちの玄関口としてみんなが使いやすいロータリーの整備
- 安心して移動できるアクセス環境の整備

#### ③ 「魅力発信」「情報発信」という視点からみた問題点・課題

##### 問題点

- 「まちの玄関口」である駅で情報発信ができていない
- 万葉の時代から続く歴史を活かしきれていない
- 町に見所はあるものあまり知られていない
- 町の特産品についてあまり知られていない
- 沢山いる通勤流入者にアピールできていない
- 町の情報を知る場所・方法が駅周辺にない
- 駅前の未利用の旧駐輪場の景観及びゴミのポイ捨てが問題
- 魅力発信・情報発信する人や施設がない

##### 課題

- 町の顔、情報発信、もてなしの空間としての再構築
- 川西町や結崎の歴史の魅力発見・コンテンツとしての強化
- 特産品の活かし方（調理・使用方法など）の発信
- 町内企業従業員に対するまちのPR
- 住民や通勤者が情報を入手できるコンテンツの構築
- スペースの有効活用とキレイで清潔な空間の維持
- 自立性が高く、クリエイティブな運営体制の構築

#### 方向性キーワードとフューチャーセッションのキーワード

にぎわい  
空間創出

集客万来

- 電車に乗る用事がなくても、人が集まる施設

商売繁盛

- 「歩いて行ける」範囲内で日常生活が成立する駅前経済圏の復活

交流の  
拠点化促進

世代交流

- 子どもたちや子育て世代にとって楽しい空間+高齢者を含めた世代交流を自然に産み出す場

運営自立

- 町民みずから企画運営に関わる

まちの  
ハブ機能強化

未来優先

- 鉄道駅の位置は変わらない。将来を見据えたハブ機能を考える

情報発信機能  
の強化

歴史尊重

- 万葉の時代から受け継いできた歴史を大事にする

安全安心な  
環境整備

安心安全

- 昼も夜も見通しが良く、女性ひとりで安心して利用でき、子どもたちが安心安全を学べる空間

## 2. 町の SWOT 分析

川西町を内部環境・外部環境で分析。「強み」「弱み」「機会」「脅威」の掛けあわせから、方向性を出す

その方向性から目指すべきキーワードを抽出

### 強み

まちの構造がコンパクトにできている

面塚（能楽「観世流」の発祥）、島の山古墳といった歴史文化資源がある

子育て人口（20～39歳）比率の減少傾向が比較のおだやか

結崎ネブカや貝ボタンといった特産品がある

年少人口（0～14歳）比率の減少が、比較のおだやか

結崎駅周辺は人口が比較的集中している

地形が平坦で、土地利用しやすい

結崎駅周辺は相対的に高齢化率が低い

昼間人口の変動が少ない

駅利用者の8割が徒歩・自転車利用者

製造品出荷額は県内6位

### 弱み

人口減少と少子高齢化が進んでいる

町内をネットワークする公共交通機関は、コミュニティバスのみ

駅周辺に集まり滞在する場所がない

町の玄関口である近鉄結崎駅の駅前空間が適切に整備されていない

駅周辺で渋滞が発生する

駅が電車利用するだけの場所になっている



### 機会

駅周辺の環境整備を望む住民の声が多い

道路・鉄道などアクセスが良い

通勤で流入する人口が多い

豊かな自然田園風景をもち、4つの川が流れる水辺の町

### 脅威

通勤・通学で流出する人口が多い

近鉄結崎駅は通過客が多く、日平均の乗降客数が減少傾向にある

商業力が弱く、町民の購買は3/4が町外に流出している

#### 強み×機会 機会を活かし強みを強化する

町がコンパクトでアクセスがよい。便利な町としての特徴を活かす。

便利

駅周辺に人口が集中しており、通勤で流入してくる人口も多い。駅周辺はみんなが集まるポテンシャルが高い。

集い

駅利用者の80%は徒歩と自転車利用、安心して通えるように駅周辺を整備。

安心

#### 強み×脅威 強みを活かし脅威による悪影響を克服する

通勤等で流出する人口が多く、町に歴史的文化資源、特産品がある。この人達が町のことを話すととても広がる。

広がり

#### 弱み×機会 機会を活かし、弱みを克服する

駅周辺に人が集まり滞在する場所がないが、環境改善を望む声がある。にぎわいはこれからつくることができる。

にぎわい

駅前空間が適切に整備されていないが、環境改善を望む声がある。この機会に場作りを行う。

場所

駅はただ電車利用するだけの場所になっているが、通勤流入者へのPRを行い情報発信することができる。

発信

通勤で流入する人口が多い。駅は電車利用するだけの場所になっている。きっかけがあれば交流がはじまる。

交流

道路・鉄道などアクセスが良いが、駅周辺に集まり滞在する場所がない。場所があればつながりはじまる。

つながり

#### 弱み×脅威 弱みと脅威から最悪のシナリオを回避する

人が集まり滞在する場所がなく、電車利用だけの人が多い。滞在する仕組みを構築。

滞在

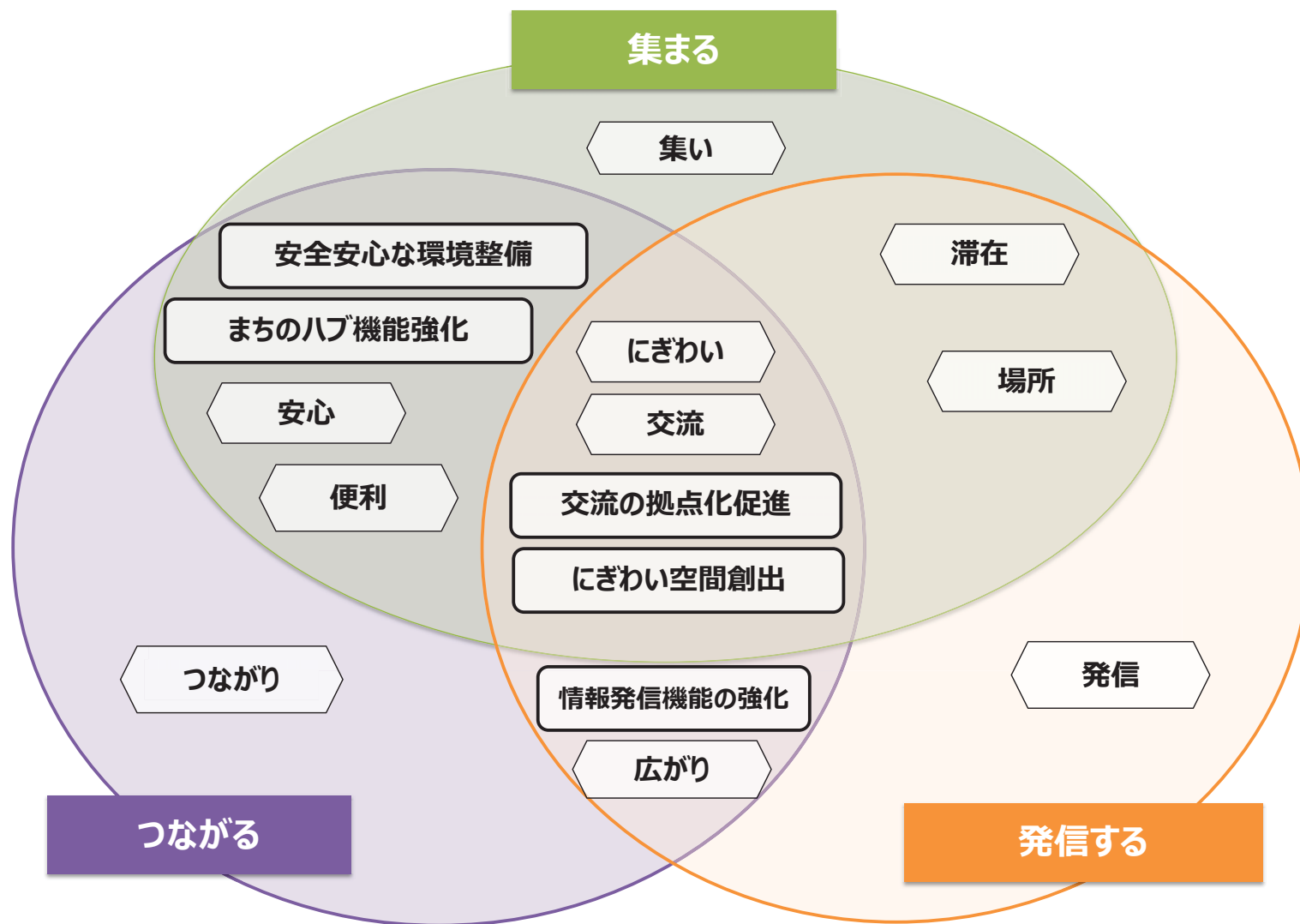
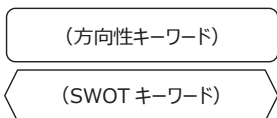
※SWOT分析とは・・・内部、外部環境を分析する戦略の立案方法の一つ。・内部環境 強み：Strength 弱み：Weakness、・外部環境 機会：Opportunity 脅威：Threat の軸で分析する。

### 3. 課題整理・分析のまとめ

「方向性キーワード」と「SWOT キーワード」を、基本方針の性質となる『集まる』『つながる』『発信する』に分類分け



各基本方針に関連するキーワードを整理



- ・分類分けの結果、「にぎわい」「交流」が全ての基本方針に関わる中心キーワードとなった。
  - ・『集まる』については、「集い」「滞在」「場所」「安全安心」「ハブ機能」「便利」が関連キーワードとしてあげられる。
  - ・『つながる』については、「つながり」「安全安心」「ハブ機能」「情報発信」「広がり」が関連キーワードとしてあげられる。
  - ・『発信する』については、「（情報）発信」「広がり」「滞在」「場所」が関連キーワードとしてあげられる。
- これらの中心キーワードおよび関連キーワードをもとに、基本構想のコンセプト、基本方針を明確化していく。

## VI 基本構想のコンセプト

### 結崎駅を舞台に、みんなが主役の“座”をつくる

### 「座」＝場所・人の集まり・同じ思い

大むかしの結崎座は將軍から庶民にいたるまで大層人気を博した“座”でした。

現代においてはそのカタチは変わりますが、結崎駅周辺が新しい“座”として多くの人々が日常的に集まり、人と人とを結ぶ場所にします。

子どもからお年寄りまであらゆる世代が安心して訪れる場所、みんなが思い思いに過ごせる場所、そこに行けば誰かに会える場所、自然と訪れたい場所として、「普段使いできる結崎駅」の魅力を高めていきます。

再び多くの人たちが集う結崎の“座”として、人と人とが織り成す物語を川西町から発信するという思いをこめてまちづくりのコンセプトにしました。

#### 3つの基本方針

##### 基本方針 1

## 集まる

### 結崎駅ならではの“にぎわい拠点”づくり

子育て世代を中心に、多世代の人が気軽に使えて、思い思いに過ごせる場所を作ります。町中から人・モノ・情報が集まり、まるで公園のような笑顔あふれる町の顔となるにぎわいの拠点を提供します。新しい公共の在り方として、民間の力を引き出す組織づくりを行います。

##### 基本方針 2

## つながる

### 顔が見えるコミュニケーションで人と人、人とまちを結びつける

「小さい町」という特徴を活かして、お互いに顔がわかるようなキメ細やかなつながる仕組みを構築します。つながることで交流がはじまり、町中に人の輪が広がります。人と人がつながり、町のイトコロが町中に広まるネットワークをつくります。

##### 基本方針 3

## 発信する

### 「楽しさ」と「未来志向」をキーワードにまちの魅力を発信する

既存コンテンツを有効活用しつつ、「未来志向」の新たな魅力の創出に取組み、町内外へ発信します。みんなが持っている「楽しさ」を集めて、相乗効果を生み出します。

## VII まちづくり基本構想の取組み

基本方針に基づき、結崎駅周辺の取組みを作成。川西町の問題点や課題を踏まえた方向性を示す。

### 基本方針1 結崎駅ならではの“にぎわい拠点”づくり

基本方針に  
基づいた  
取組み

H1-①

駅周辺が町の顔となる  
空間の形成

フューチャーセッション等の住民意見を参考にした取組み例

- ・奈良県産の木材を使用したぬくもりのある施設
- ・「外に魅せつける」「住民が使い倒す」広場空間作り
- ・にぎわい活性化のためのレンタルスペースの設置

レンタルスペース  
少人数で集まりやすい  
自由な目的に対応できる空間  
空間レンタルの利便性



基本方針に  
基づいた  
取組み

H1-②

子育てを軸とした、人が集まり過ごせる施設の導入

フューチャーセッション等の住民意見を参考にした取組み例

- ・子育てサポートにつながる子育てサロンやキッズスペースの設置

子育て支援空間  
子育て世代を支援する施設  
川西町にとって伸びしろ  
充実した子育て支援ニーズ



キッズスペース  
気軽な子どもたちの遊び場  
関係かつ自己責任の範囲  
子育て支援で両立性アップ



基本方針に  
基づいた  
取組み

S1-①

既存商業施設（アーケード）の再生に向けた仕組みづくり

フューチャーセッション等の住民意見を参考にした取組み例

- ・再生を考えるアイデア会議の開催
- ・ボランティアチームの結成
- ・大学等を巻き込んだリノベーションコンペの開催
- ・結崎駅周辺まちづくり活動と連携した活用

基本方針に  
基づいた  
取組み

S1-②

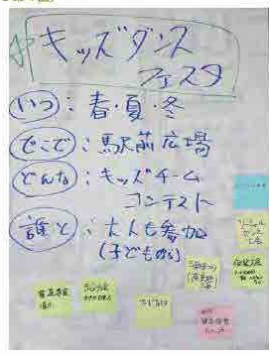
人を集めてにぎわいを  
生み出す、  
多彩なイベント  
の開催

フューチャーセッション等の住民意見を参考にした取組み例

- ・オープンカフェやマルシェなどの実施
- ・キッズカフェやキッズダンスフェスタ、ハンモックフェスタの開催

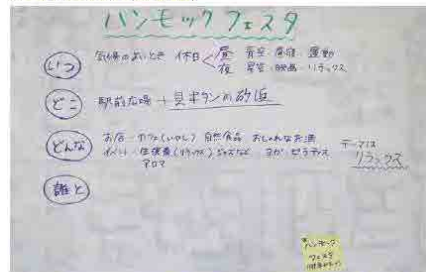
キッズダンスフェスタ (FS第4回)

「駅の周り以外でやりたいこと」にて発表された右側は、季節ごとに駅前広場でキッズチームのダンスコンテストを開催するという提案。子供たちのイベントがあれば少なくともその意義、祖父母が参加に来ることが多いとの意見を基に実施された。大人たちも集まるようになればダンスへの参加を促すことでより規模の大きなイベントへ拡大・拡散していく。また、それと合わせてフードフェスタやBBQ大会なども開催することで、キッズダンスフェスタ目的、フードフェスタ目的の来客者がそれぞれもう一方のイベントにも足を伸ばすことで相互作用するという案。



ハンモックフェスタ (FS第4回)

項目C・Dと結崎ネオカナルと同様に広場の使いかたとして選定された上乗のハンモックフェスタは、リラクサをテーマとした提案で発案の早い時期に出掛けとしてハンモック設置して昼は昼寝や運動。夜は星空を眺めながら映画の上映などを行うイベント。その際に自然食品やお酒、生演奏やヨガ、アロマなども加えて良質な休日を楽しませる。



基本方針に  
基づいた  
取組み

H1-③

人も車も集まりやすく使いやすい  
安全で快適な駅前広場の整備

フューチャーセッション等の住民意見を参考にした取組み例

- ・雨をしのげる屋根の設置、一時滞在するための駐車場の設置
- ・周辺民間駐車場等との連携
- ・通勤者にとっても使い勝手のよい企業バス送迎スペースの設置
- ・ベビーカー、高齢者、車椅子等バリアフリーに対応した歩道空間の確保・改善

## 基本方針 2 顔が見えるコミュニケーションで人と人、人とまちを結びつける

基本方針に  
基づいた  
取組み

### H2-① コミュニティバス等公共交通の快適な利用が促進される駅前広場

フューチャーセッション等の住民意見を参考にした取組み例

- ・ 快適な待合空間、バス停車スペースの確保



基本方針に  
基づいた  
取組み

### H2-② 人や車の安全な流れを促す駅周辺道路整備

フューチャーセッション等の住民意見を参考にした取組み例

- ・ 駅前から周辺へつながる歩車道の整備
- ・ 幅員が狭小な南北踏切の拡幅
- ・ 町道結崎線からロータリーへアクセスする新設道路の設置



基本方針に  
基づいた  
取組み

### H2-③ 利便性向上に向けた、駅周辺施設の再配置

フューチャーセッション等の住民意見を参考にした取組み例

- ・ ロータリーと連携した西改札の移設
- ・ 駅東側からのアクセスを向上させる東改札の新設
- ・ 駐輪場への分かり易い動線設定



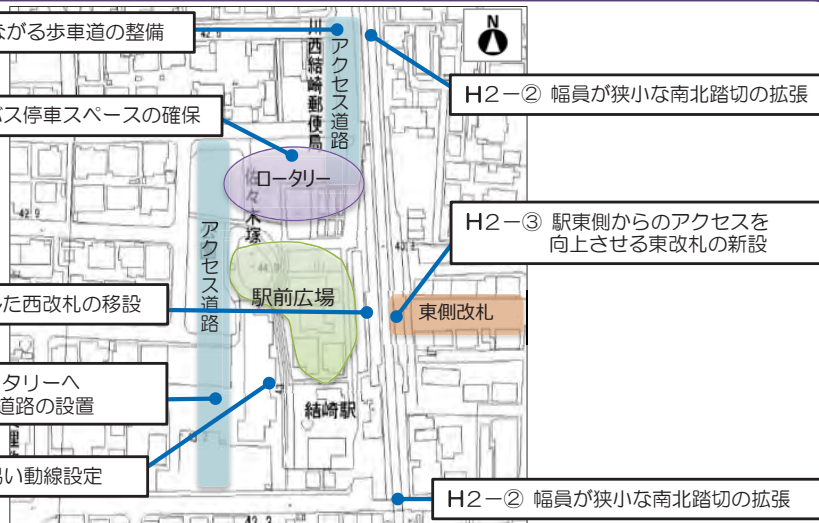
H2-② 駅前から周辺へつながる歩車道の整備

H2-① 快適な待合空間、バス停車スペースの確保

H2-③ ロータリーと連携した西改札の移設

H2-② 町道結崎線からロータリーへ  
アクセスする新設道路の設置

H2-③ 駐輪場への分かり易い動線設定



H2-② 幅員が狭小な南北踏切の拡張

H2-③ 駅東側からのアクセスを  
向上させる東改札の新設

H2-② 幅員が狭小な南北踏切の拡張

基本方針に  
基づいた  
取組み

### S2-① 多様な担い手による町内ネットワークの強化

フューチャーセッション等の住民意見を参考にした取組み例

- ・ まちづくりをリードする人材の発見、発掘、活用、育成
- ・ 地域に根付いた民間との積極交流
- ・ まちづくりを実践する組織の構築

基本方針に  
基づいた  
取組み

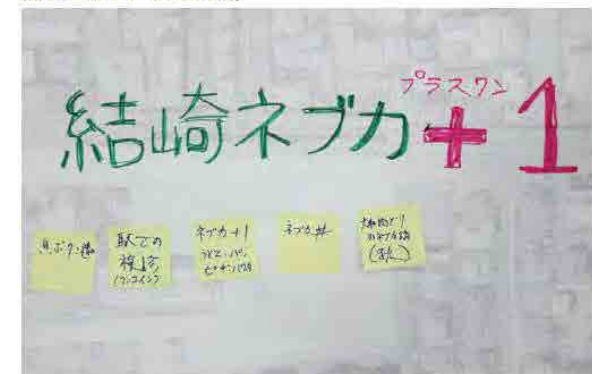
### S2-②

### 気軽に参加できる機会を作り世代間・地域間の交流促進

フューチャーセッション等の住民意見を参考にした取組み例

- ・ ネブカ等農作物を通じた販売交流イベントの開催（フードフェスタ等）
- ・ 通勤流入者も気軽参加できる交流イベントの開催  
（駅前酒場、パブリックビューイング等）
- ・ 町内企業と連携した交流イベントの開催

結崎ネブカ+1 (FS 第4回)



項目Cのダンスフェスタと同様に乗り降り以外でやりたいこととして発表された上案は、地場特産である結崎ネブカをより波及させることを基とした案。結崎ネブカは季節限定ではあるが調理法が多く、結崎ネブカ+もう一品でフードフェスタを開き、その創作料理についてコンテストを行うという案。





## Ⅷ まちづくり構想図

コンセプト 結崎駅を舞台に、みんなが主役の“座”をつくる

基本方針1 【集まる】 結崎駅ならではの“にぎわい拠点”づくり

基本方針2 【つながる】 顔が見えるコミュニケーションで人と人、人とまちを結びつける

基本方針3 【発信する】 「楽しさ」と「未来志向」をキーワードにまちの魅力を発信する

【まち全体への広がり】

S2-① 多様な担い手による町内ネットワークの強化  
(例：まちづくりをリードする人の発見等)

S3-① 川西町らしい魅力が感じられるブランドづくり戦略  
(例：地場産品販売でブランド構築)

【アーケードにおけるにぎわいの復活】

S1-① 既存商業施設（アーケード）の再生に向けた仕組みづくり（例：再生を考えるアイデア会議の開催等）

【道路整備】

H2-② 人や車の安全な流れを促す駅周辺道路整備  
(例：駅前から周辺へつながる歩道の整備等)

【駅前空間整備】

H1-③ 人も車も集まりやすく使いやすい安全で快適な駅前広場の整備  
(例：一時滞りするための駐車場の設置、バリアフリーに対応した歩行空間の確保等)

H2-① コミュニティバス等公共交通の快適な利用が促進される駅前広場  
(例：快適な待合空間、バス停車スペースの確保)

【駅関連施設整備】

H1-② 子育てを軸とした、人が集まり過ごせる施設の導入  
(例：子育てサロンやキッズスペースの設置等)

H2-③ 利便性向上に向けた、駅周辺施設の再配置  
(例：西改札の移設、東改札の新設、駐輪場への分かり易い動線設置等)

H3-② 川西町の情報が集まり広がるための施設の導入  
(例：情報発信施設の設置、情報発信ツールの活用等)

【駅周辺におけるにぎわいの創出】

H1-① 駅周辺が町の顔となる空間の形成（例：「住民が使い倒す」空間作り等）

S1-② 人を集めてにぎわいを生み出す、多彩なイベントの開催  
(例：オープンカフェやマルシェなどの実施等)

S2-② 気軽に参加できる機会を作り世代間・地域間の交流促進  
(例：町内企業と連携した交流イベントの開催等)

H3-① “魅せる”ことができる駅前空間の整備  
(例：快適な通勤、送迎環境の整備・企業へのアピール等)

